

日本YWCAの使命(ミッション)

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題

平和を実現する人々は幸いである一マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
- ・ 平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・ 市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・ 女性と子どもの権利をまもる
 - ・ パレスチナYWCAの活動を支援する
- (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 11

NOV.2010

発行所 日本YWCA

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8

Tel. 03-3264-0661

【駿河台オフィス】

〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11

東京YWCA会館302号室

Tel. 03-3292-6121 / FAX 03-3292-6122

E-mail. office-japan@ywca.or.jp

編集発行人 俣野尚子

振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)

定価1部 150円

年間購読料2,200円(送料込)

www.ywca.or.jp

YMCA/YWCA両会長のメッセージ

今年の合同祈禱週の様子は「女性が創りだす安全な世界」です。これは2011年7月10日～16日にスイスのチューリッヒで開催される世界YWCA総会と国際女性サミット (IWS) のテーマでもあります。国際女性サミットでは、暴力の問題、性と生殖の権利、HIVの蔓延といった問題の関係性について調査し、協議します。今回のテーマは女性が指導的役割を持ち、日々の生活において創造的な役割を等しく担っていることを称賛しています。多くの宗教の中で、キリスト教は特に女性の役割を、創造するもの、生命を養い育てるもの、他人に手を差し伸べるものとして捉え、またそのように強く確信しています。

何世紀もの間、女性と少女たちはそれぞれの時代の脅威や葛藤に立ち向かう指導者となってきました。すべての女性たちは自分の「世界」を定義します。私的に親密な家族という領域において、また家庭で、寝室や台所で、また公的領域である学校や教会、友人同士のグループにおいて、彼女たちは愛を、思いやりを、癒しを与えています。それらの領域で、個人の持っている潜在的な力を養成しています。ところが、あまりに多くの女性と子どもたちがドメスティック・バイオレンス (DV) や家族間での暴力を経験しています。女性や子どもたちは放置され、虐待され、暴力をふるわれているのです。悲しいことに、女性や少女たちが心理的トラウマに悩まされたり、HIVのような病気に感染するケースが多くあるのです。

より安全な世界の実現は可能なのでしょうか？ もし可能であれば、YMCAとYWCAは安全な世界を築くためにどのように貢献できるのでしょうか？

「安全」な世界とは、すべての場において暴力から自由であることが含まれています。紛争・戦争・暴力の世界の中で、安全な世界のために暴力を予防・防止する強靱な努力と平和の追求に専念することが求められます。「安全であること」は、すべての人間に共通の権利を謳歌し、差別や偏見から自由に生きることです。それは、ジェンダーの公平性を受け入れ、男性も女性も与えられた賜物をよりよい社会づくりのために用いることです。このことは、信頼性の高い情報に十分にアクセスできることが含まれます。それによって、女性も男性も、若者も高齢者も責任ある決断をすることができるからです。すべての人々が、競争し自らの利益のために他を排除するのではなく、むしろ共益のために協力する社会を実現するためです。

安全な世界を創りだすために、私たちは父権的な意味での保護と安全を混同してはなりません。私たちはたくさんの「防衛」のための壁や塀を目にしますが、それらは恐れと不安のシンボルであり、保全と調和というよりも、抑圧の道具となっています。

世界中にあるYWCAとYMCAは、女性や少女たちにリーダーシップ養成の機会を提供することを通して、安全な世界の創造に貢献しています。こうした活動は、ジェンダー格差の問題や女性の権利の侵害に関して、コミュニティの認識と知識を向上させています。また、これらの活動で女性にも男性にもロールモデルを提供することで参加者たちのリーダーシップを強化し、すべての人の利益のために共に取り組むよう積極的に行動する人材を育成しています。

女性にとって安全な世界を構築するために、私たちの所属するYMCAとYWCAはさらにどのような取り組みができるのでしょうか？ それとも安全な世界の構築は夢物語にすぎないのでしょうか？ 今年の合同祈禱週において、天からのみ使いに、私たちに眠りから目覚めさせてもらいましょう。失望してはいけません。私たちが世界をもっと安全な場所に創り変えようとするとき、神は私たちと共にあります。

世界YWCA会長
スーザン・ブレナン

世界YMCA同盟会長
ケン・コロトン

(翻訳: 安川美歩)

世界YMCA/YWCA合同祈禱週
2010年11月14日(日)～20日(土)

女性が創りだす 安全な世界

世界YMCA/YWCA合同祈禱週は、世界中のYMCAやYWCAに連なる人々が一つのテーマのもとに祈り行動する機会として、毎年11月第3週に定めて、共に祈りの時をもっています。



■ 1週間のテーマ

- 第1日: 自らを危険にさらす人々は幸いである。その人たちは安全を与えられる。
- 第2日: 女性への暴力に立ち向かう人々は幸いである。その人たちは命を選ぶ。
- 第3日: 他人の才能を認め評価する人たちは幸いである。その人たちは成功する。
- 第4日: 公正な保健医療のために声をあげる人々は幸いである。その人たちの声は受け入れられる。
- 第5日: コミュニティをつくりあげる人々は幸いである。その人たちは皆一緒に祝福される。
- 第6日: 変化を求める勇気のある人々は幸いである。その人たちと未来は祝福される。

YWCAの Wの意義とは?

大野綾子

YWCAのW (women) とは何か。一にはまずYWCAが女性の団体であることを明示しているが、他にもどんなWの意義があるのかを考えてみたい。

二に、活動におけるWとは何か。その中には世界YWCAが取り組むべき課題と掲げている「Wへの暴力」であるDV、デートDV、ストーキング、セクハラ、レイプ、HIV&AIDS、少女買春など性暴力の問題があり、既に多くのローカルYWCAが取り組んでいる。このほか強調したいのはYWCAが取り組むすべての活動においてWの視点を持つことの大切さ、必要性である。事実、環境問題に取り組むのは身近な食の問題、ゴミの問題などからスタートした女性が世界的に多い。またYWCAが特に力を入れている平和問題も、例えば戦争の発端が外交・イデオロギー・経済・宗教の問題などになると、あまりに大きく漠然として自分自身の問題として捉えづらく、あなた任せになりがちである。しかし劣化ウラン弾が落とされたために、その影響が我が子に病気や障がいになって影響し、生命に関わるとなると、産む性であるWの視点で問題を直視して、自分自身の問題になり、何とか使用を禁止させる運動に発展できる。このようにすべての課題にWの視点を持って向き合い、気づき、自分自身の問題として受けとめ、取り組む必要がある。

三に、日本国憲法に男女平等が謳われ、女性差別撤廃条約を批准し、男女共同参画社会基本法が施行されても、現実には政治・経済・教育・保健分野から測る世界経済フォーラム「ジェンダーギャップ指数」で日本は98/130位。また昨夏国連女性差別撤廃委員会からは改善を勧告されたように依然男性優位・ジェンダーバイアス・性別役割分業を強いる社会が歴然とあることが、Wゆえに体感できる。こうした社会が暴力の要因になり、Wにとって生きづらく、社会変革が求められている。

WによるWの視点を持つ取り組み、Wによる社会変革がWに込められた意義なのではないか。

(日本YWCA運営委員)

9 Girls Rock!

—とてもよくある質問集—

みんなで素敵な答えを考えて世界に広めましょう♪

せん。また平易な言葉を使って回答すれば、誰にでも理解できると考えました。次に、少女の質問内容は、私たちがよく問われることや、うまく答えられない問いにしてみました。

今年5月に行われた加盟YWCA中央委員会ビジョン2015推進委員会は、「憲法」と「平和」を大きなテーマとして、ワークショップを行いました。

最初に5月18日の憲法改正国民投票法施行を受けての参議院議員へのロビイング報告、次に軍隊のない国々の紹介をしました。

下段に掲載されている地図には、軍隊をもたない国でYWCAがある国を示しています。しかし、軍隊はないと言っても、日本と同様、軍隊がある国との安全保障条約や協定などを結んでいるなど、軍隊と憲法の関係がややふやな国が多いことも事実です。

「軍隊」と「憲法」を関連づけて考えることは、本当の平和を探す上でヒントになるのではないのでしょうか。

その後「9 Girls Rock」としてもよくある質問集を用いてワークショップを行いました。グループに分かれて6つの質問の回答について話し合った際、Q6の質問を担当したグループでは「自分の娘だったら…」と自分の身に置き換えて考えました。他のグループでも思わず膝を打つようなYWCAらしい回答が出て大きな反響を呼びました。

下段に掲載されている6つの質問に対する答えは、質問を考えた委員会のメンバーによる答えです。答えには、決まった形式や正解はありません。質問の答えを考えるを通して、問題を自分に引き寄せて問題の根元を考えること、そして皆で考え、異なる意見の人とも対話の中から答えを考えて続けていく

Q1 9条! 9条! って言うけれど、敵が攻めてきたら、どうやって自分の国を守るの?

反米的にならない。なるべく大勢の中で何も持たないで座って話す。耳より上に手を上げない。短気を起こしたり、悪口や嘘を言わない。軍人を教え導く心構えが大切。愛をもって道理を尽くす。これらの言葉は、1953年沖縄の伊江島で、米軍が軍用地拡大のために「銃剣とブルドーザー」による土地接収を強制した際、島ぐるみで闘った阿波根昌鴻さんがまとめた「陳情規定」に記されています。緊迫した状況にあっても、「9条」を生かし、人としての道理を言葉で語りかける国民であることを明言したいと思います。「勝つまで続ける」とは阿波根さんの口癖であったそうです。(中高YWCA委員 杉村みどり)

Q2 でも、戦争したらお金がもつかるのじゃない?

戦争になったら軍需産業はもうかりますね。例えば、武器を作ったり、その材料を売ったりするならば、たくさん売れてもつかるでしょう。でも、武器は建物や人々を傷つけ破壊するための道具で、人殺しの道具です。それを売買してもうけても心から喜ばないのではないのでしょうか。自国が戦争をしていなくても、武器を輸出しているなら戦争に加担していることになりませんか。(ビジョン2015推進委員 横山由美子)

Q3 軍隊を出さなくて、お金を出しているだけじゃいいの?

日本は憲法で軍隊を持たないと決めているから、国連で他の国に軍隊を出そうと決めても軍隊を出すことは出来ないの。「何もしないと平和のために協力していないと外国から思われるから」と、軍隊を出す代わりにお金を出すことが日本の解決方法だと思ってるんだよね。でも、軍隊を出したり、お金を出す前にもっと大事なことを考える必要があると思うんだよ。軍隊を出して戦争したり、一方的に爆弾を落としたり...、そして無理矢理その国を変えていく。たとえ「平和」や「正義」の名前を使っても、それが本当に正しいやり方なのか。その方法に日本が、私たちが賛成してもいいのかな。平和や正義のために、誰かの命を奪って良いことは何も無いよ。どうしたらいいか、みんなでちゃんと考えることが出来たらいいね。(ビジョン2015推進委員 吉村千恵)

軍隊のない国のうちYWCAのある国は

コスタリカ、グレナダ、アイスランド、モーリシャス、セントヴィセント・グレナディンズ、サモア、ソロモン



Q4 核を持つ国が、持たない国にどうして「持つな」と言うの?

米ソ冷戦時代、想像を超える破壊力を持つ核兵器を保有することで、対立する国が核兵器の使用をためらうのではないかと考える方があり、「核の抑止力」と言われている。でも、それでは互いにけん制し合って核兵器は増えるばかりだよ。現に、オバマ米国大統領が核兵器廃絶を唱えている今も、核兵器の数で威嚇・けん制している状況は変わりません。持っている国が、後から持とうとする国が出ることを防ぎ、これ以上核兵器が広がらないようにというのだけれど、説得力がないよね。核兵器を持っている国が率先して放棄しなければ、新しく核兵器を持とうとする国は後を絶たないでしょうね。(ビジョン2015推進委員 横山由美子)

「9条! 9条!」って言うけれど、敵が攻めてきたらどうやって自分の国を守るの?」

少女が彼女のお母さんに聞きました。あなたならどう答えますか?

日本YWCAビジョン2015推進委員と中高YWCA委員のメンバーで、どのように「憲法9条」の大切さを広めたいかを考えていた時、委員の一人が「軍隊を持っていない国は世界に30カ国近くある*。でも日本やコスタリカはアメリカの軍隊の傘があるのではないかと聞かれたこともある」発言。そこで憲法9条を考えるにあたって避けては通れない「戦争」「軍隊」「核」を質問の中に取り入れ、その質問の答えを考える作

「9 Girls Rock!」の始まりです。まず質問の設定について考えました。そこで、夕食を終えてゆっくりしている時に少女がお母さんに質問をするという設定にしました。普段私たちが聞かれて答えに困る問いを少女の素朴な質問にしてみました。回答者がお母さんの立場となり、少女にも分かるやさしい言葉で答えるというものです。良く考えなければ答えることができません。

「9 Girls Rock!」とてもよくある質問集」と、中央委員会出席者による回答、また、今年5月に依頼した各政党からの回答は、近日中に日本YWCAホームページに掲載予定です。ぜひご覧いただき、地域の仲間たちと話し合ってみてください。一緒に素敵な答えを世界に広めましょう♪

木村真理子

中々、一緒に素敵な答えを考え広めていくことが目標です。私たちがビジョン2015推進委員会では、この質問集を世界のYWCAにも発信し、軍隊について世界の人々と共に考えそこから憲法9条の大切さを広めていくことを考えています。

「9 Girls Rock!」とてもよくある質問集」と、中央委員会出席者による回答、また、今年5月に依頼した各政党からの回答は、近日中に日本YWCAホームページに掲載予定です。ぜひご覧いただき、地域の仲間たちと話し合ってみてください。一緒に素敵な答えを世界に広めましょう♪

木村真理子

Q6 パートナーができたの。でもその人は軍人なの。戦争は嫌。でもパートナーは好き。どうしたらいい?

あなたの大好きなパートナーが殺されるかもしれないし、ほかの人を殺すかもしれないって、どちらともいやだもんね。パートナーだつて、なりたくて軍隊に入っているわけではないかもしれないね。だからこそ、戦争は絶対に起こってほしくないし、本当は軍隊がなくなってくれたら、うれしいのよね。世界中には同じような思いをしている人たちがたくさんいるのよね。私はあなたと同じような思いをしている人が少しでもいなくなるように、戦争がなくなるように社会に訴えていくわね。(ビジョン2015推進委員 樋口さやか)

Q5 どうして大人は戦争するの?

どうしてだろうね。大人は子どもより我慢が出来なくて、いやなことは人と争ってもいいやとなってしまうのかもね。ただ、一つ言えることは、争いのきっかけは、必ずしも大きなものではないんだってこと。でもね、争いが始まると、仲が良かった人のことまでも憎んでしまうことがあるんですよ。だから、あなたは大人になっても絶対に争いを始めてはならないし、それを生まないように、普段から差別や不平等をなくしていくような大人になつてほしいと思うわ。(ビジョン2015推進委員 樋口さやか)

前田朗著「軍隊のない国家27の国々と人びと」日本評論社

中高YWCA 夏のカンファレンス報告

今夏も全国3地区で中高YWCAカンファレンスが開催され、222名参加しました。

枠を超えて

●東北・北海道地区

今年度は山形学院高等学校(山形市)が当番校となり、7月29日(木)～31日(土)にかけて「福祉」をテーマにカンファレンスを実施。参加人数は総勢50名(生徒33名、顧問7名、福島YWCA会員等10名)でした。初日はまず羽角健二さんの講演。羽角さんは働き盛りの頃事故で下半身の自由を失われ、しかし今は車椅子ダンスを



「愛はすべてを完成させるきずなです」

(「ロサイの信徒への手紙」3章14節)

人生には、たった一度であっても忘れられない出会いがあります。韓国・慶州ナザレ園を創設された金龍成先生は、私にとってそのような方です。日本の植民地下、抗日運動の士であった父上は獄死。「私は、父を奪った日本という国を激しく憎んだ」と告白されています。しかし、キリストの愛と赦しを信じるが故に、朝鮮半島に取り残された日本人妻孤老を訪ね歩き、共に生き、そしてそのホームのために生涯を捧げられました。

憎しみはさらに憎しみを生み、その連鎖は果てしなく続きます。パウロは私たちに、「愛こそがすべてを完成させるきずなである」と語りかけます。金先生の憎しみを乗り越えさせたのは、この愛だったのです。イエス・キリストの生と死に現された愛と赦しは、すべてを包み込み、人と人を、国と国を、和解へと導くきずなとなりました。金先生は、そのようにして、韓国と日本の平和の架け橋となってくださったのです。辛い過去を背負いつつも明るく生きるナザレ園の日本人女性たちの笑顔と共に、それを支え続けられた金先生の静かな佇まいを、私は今も、鮮明に想い起こします。

寺島順子(日本YWCA運営委員)

はじめ、人生を積極的に生き、希望にあふれておられました。ダンスパートナーの末廣かなえさんとの息の合ったタンゴを披露された時の素敵な笑顔は忘れられません。生徒たちも車椅子ダンスに挑戦。楽しみながら、ハンディの何たるかを肌で感じることができました。

2日目は社会福祉法人「わたしの会社」の皆さんと共に「ほっとクッキング」。皆で協力してピザを作り、美味しくいただきました。午後は福島YWCA主催のワークショップ「二つの展覧会」。書道家の本多道子さんとその生徒さんたちにご出席いただきました。「第二の展覧会」人間彫刻」では、各グループに分かれて「障がい」をテーマに身体を使って表現しました。これまで自らつくって来た枠を超えて「いっしょに楽しむ」ことのできたカンファレンスでした。

山形学院高等学校YWCA顧問 三ツ本武仁

平和を実現する人々は、 幸いである

●関東地区

関東地区カンファレンスは、8月2日(月)～4日(水)に、東京YWCA会館を主な会場として行われました。主題は「平和を実現する人々は、幸いである」です。今回は横浜共立学園とフェリス女学院が共同で当番校となり、東京ならではの地利を生かして盛りだくさんのプログラムを行いました。講師には日本キリスト教団番町教会牧師の横野朝彦さん(主題講演と聖書研究)、日本YWCA運営委員の杉村みどりさん(靖国神社についてのお話)、聖坂養護学校校長の松井務さん(平和と障がい児教育についての講演)をお迎えしました。

2日目には靖国神社・遊就館や女たちの戦争と平和資料館(Wam)の見学というフィールドワークも行い、さらには宿泊した在日本韓国YMCAアジア青少年研修センターの中にある2・8独立宣言資料室の見学、独立宣言に関するDVDの鑑賞など、多くの学びが与えられました。

参加した7校から39名の生徒、8名の顧問に加えて、講師や日本YWCA・東京YWCAのスタッフもプログラムに参加して、平和について深く考える豊かな学びと交わりの時となりました。フェリス女学院中高YWCA顧問 野田美由紀

生命のメッセージ

●関西地区

8月2日(月)～4日(水)、同志社びわこリトリートセンターにて、122名の参加者を得て「生命(いのち)のメッセージ」(自分を本当に大切にすること)というテーマで行いました。

人の生命を奪う犯罪や自ら生命を絶つという事件に胸を痛め、すべての生命の大切さを知る機会になればという思いで、カンファレンスをつくり上げていきました。日本バプテスト病院チャプレンの浜本京子さん、同志社大学社会福祉学准教授で京都YWCA会員のマーサ・メンセンディークさん、ウガンダでのボランティア医師の経験をもちの川西健登さんの3人の講師をお迎えし、貴重な体験に基づきお話を伺うことができました。さらに、グループ討論でさまざまな角度からテーマをほ

りさげてくださったおかげで広がりを見せ、より意義深いカンファレンスとなりました。本校生徒にとっても、生命の重みを感じ、自分を受け入れ、他人に寄り添う大切さを再認識する良い機会となりました。参加校の先生方のご協力のおかげで無事に終えることができ、心より感謝申し上げます。

同志社女子中高YWCA顧問 中村久美子



クリスマス献金のお願い

YWCAは、女性の社会参画を進め、特に若い女性一人ひとりが、社会を変革するチカラをつけるために、多くの人材育成プログラム事業を実施しています。若い女性たちが人との出会いを通して社会の課題を知り、女性が創り出す安全で平和な世界の実現のビジョンを描いてスキルを磨くことをYWCAは大切にしています。

うれしいことにYWCAのプログラムを通して、各地に平和の種が蒔かれ、芽生えています。しかし、芽生えた芽が育つためには、水を与える人、枝を支える人など継続的な人のサポートが必要です。大きく育てていくためには、豊穡な土と、恵みの雨と暖かな光など、トレーニングの環境づくりと経済的支援が必要です。

地の平和を祈りつつイエス・キリストの誕生を祝う2010年のクリスマスに、次代の平和の担い手であるこれらの若い女性たちの平和の芽をさらに育てる「ユーストレーニング」のために、クリスマス献金をおささげいただきますようお願いいたします。

YWCAのクリスマス献金は、具体的には次のプログラム等に用いさせていただきます。

- ・世界会議への派遣 世界YWCAが主催する国際会議への参加経験を通して、国際的な視野をもつ多様な人材を育成。
- ・インターン インターンには支援活動や国際協力事業を生み出すチカラ、運営を継続していくためのスキルを学ぶ機会を提供。
- ・中高生のカンファレンス フィールドワーク・ワークショップ・聖書の分かち合い・講演等を通して、自己を見つめ他者と向き合う感性を育む。
- ・情報提供・啓発活動 HIV&AIDS・人身売買・貧困問題などの世界的な課題や、女性を取り巻く各地の現場報告、一般メディアでは得られない情報の翻訳提供ほか、学習会を企画・開催し、社会状況を分析するトレーニングの機会を提供。

〈振込先〉 郵便振替 00170-7-23723
財団法人日本YWCA
*通信欄に「クリスマス献金」とご記入ください。

広報&ファンドレイジング委員会



静岡YWCA30周年記念「ピースフェスティバル」 自信と将来への展望を得て



静岡YWCAは8月18日から5日間、静岡市の市民ギャラリーを会場に30周年記念事業の第1弾「ピースフェスティバル」を開催した。会場が市の中心部だったことや、NHKや地元新聞・テレビの報道もあり、来訪者は猛暑の中、700人を超す盛況だった。昨年末から企画を練り準備を重ねてきた記念行事だけに、この成果に会員の喜びも大きかった。

「文学を読もう―聴覚障がいのある方々とともに」を開催して

2010年6月4日から3週連続で、札幌YWCAのYS Cafeで、文学作品を読む会を開催しました。1回目は、山本周五郎賞や直木賞を受賞したことで有名な重松清さんの短編小説『カレーライス』を、2〜3回目は、ノー

書道教室の歩み―障がいを持つ子どもたちと共に



●福島YWCA

福島YWCAの書道教室は1971年に始まり、8名のボランティアで続けてきました。生徒数は多い時は50名近くいましたが今は8名です。10年前、ダウン症の児童を迎えたときは不安もありましたが、すべて神さまに委ね、「よいところを見つけてほめること」と心に刻んで、子どもたちに接してきました。4名は一人もやめることなく、他の子どもたちも仲良く書道に励み、むしろ私たちが教えられ励まされてきました。

念感謝会、記念誌発行と続く。しかし思い返せば、何といても今年のピースフェスティバル最大の収穫は、静岡英和女学院中高YWCAとの連携だった。顧問の先生のご理解もあって受付や展示に生徒さんの若い力と積極的な参加が実現した。

とが多いのですが、身体的な障がいなどにより、こういった方法で実施される会に参加することが難しい人たちがいます。もちろん、人間は人それぞれ得意・不得意は異なるため、すべての人にとって便利でわかりやすい方法というのは難しいかもしれません。今回は「目を

今年7月に山形学院高等学校で、「福祉」をテーマに東北・北海道地区中高YWCA夏のカンファレンスが開催され、福島YWCAの書道展のことを発表することになりました。教室に通う障がいをもった子どもたちも今や20歳と23歳。彼らたちと共に参加し、「どんな気持ちで書いたか」「どこが難しかったか」など、書を紹介しながら発表していただきました。後で送

核兵器廃絶を訴える「高校生平和大使」世界YWCA訪問



られてきた、中高YWCAの生徒たちの感想文には、「力強い字で自分の想いを表わっていて感動しました」「迫力ある線で見事に感動しました」、その他たくさんの感想がありました。書道教室は、多くの方々に支えられて、豊かな交わりの中で続いています。

「協力ありがとうございます」 賛助費 岩田陽子 岡崎敏雄 大里喜美子 立身富子 皆川悦子 三宅あやめ 桃井明男 渡辺園子 ギッシュ陽子 赤木弘子 白井裕子 平和教育資金 熊本YWCA 国際協力基金 鍛冶富美子 (オリブの木募金) 杉江命子 滝本 貴 皆川悦子 日本基督教団高石教会 (2010年9月20日現在敬称略)

長崎県の平和団体50団体(長崎YWCA含む)が1998年に始めた「高校生平和大使」は、戦争も核兵器もない「平和な世界の実現」を求める署名を毎夏国連に届け、世界YWCA事務局を訪ねています。以下は、世界YWCAホームページで紹介された記事の抜粋です。

「核兵器のない世界への道は困難ですが、世界中の人々の助けと理解があれば、世界平和への道を開くことは可能です」。これは2010年8月18日に世界YWCAを訪れた高校生平和大使である白井小春さんの言葉です。この日、15名の高校生平和大使が世界YWCAを訪問しました。

「私たちの力は小さいけれど、無力ではない」と信じています。佐々木彰子さんは、「若い世代が行動を起こし、核戦争や放射能汚染の危険を主張しなければならぬ」という信念をもち、人類の平和な未来を実現できるかどうかは若い世代の肩にかかっている」と語っています。

また、高校生平和大使は核兵器のない世界を実現することの重要性も強調しています。世界にはたくさんの課題がありますが、軍事力と軍隊が解決の方法となるべきではないのです。「多くの国が核兵器削減のために動き、核兵器のない世界に向けて真剣に努力することを期待します」佐々木さんはこのように述べました。